



西京極

## 令和6年度 前期 振り返りアンケート 結果のお知らせ

令和6年11月  
京都市立西京極小学校  
校長 齋藤 直子



西京極小学校HP

### 学校教育目標 いきいき学び、心豊かに生活し、未来を切り拓く 子どもの育成

- ・事実と知識を大切にし、探究する子ども
- ・自ら調べ、考え、学ぶ子ども
- ・人とのつながりを大切にする子ども
- ・豊かで楽しい生活を追い求める子ども

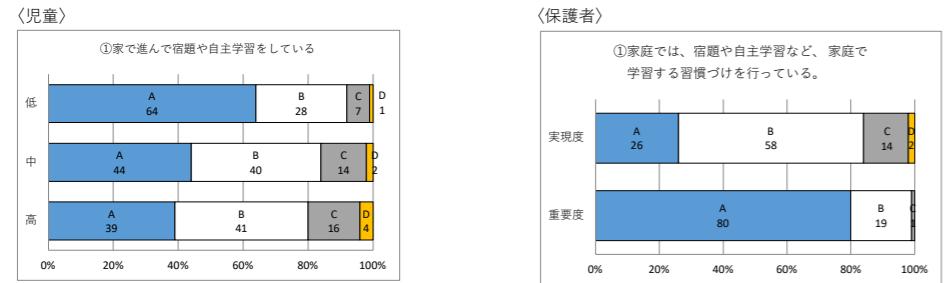
晩秋の折、保護者の皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は本校教育推進のためにご理解・ご協力をいただきありがとうございます。

さて、今年度7月に実施しました前期振り返りアンケートの集計結果について、お知らせいたします。

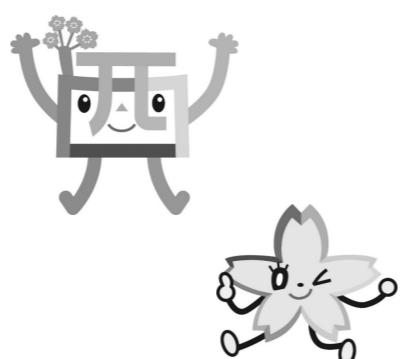
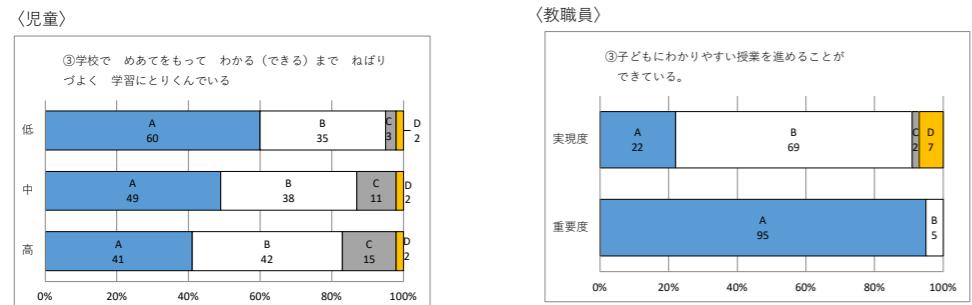
◇ 低…低学年(1・2年生) 中…中学年(3・4年生) 高…高学年(5・6年生)

### 1 確かな学力

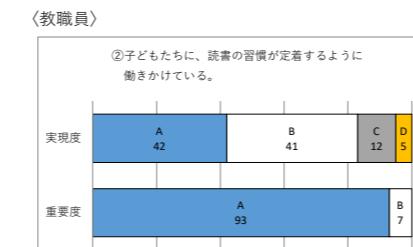
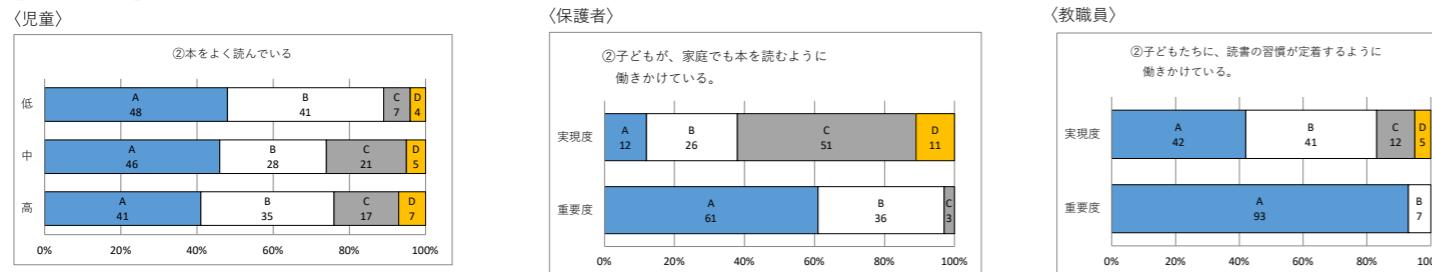
#### 【家庭での自主学習】



#### 【めあてをもって粘り強く学習に取り組む】



#### 【読書の習慣】



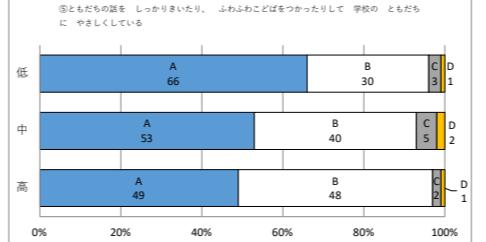
「めあてをもって粘り強く学習に取り組む」については、昨年度の同じ時期と比べると、低学年・中学年の児童で肯定的な回答の割合が増えています。これは昨年度から引き続き児童の意欲が向上するような学習課題の設定やGIGA端末を活用した主体的な学習活動の工夫を行い、授業改善を進めてきました。その一方ですべての学年で否定的な回答をしている児童が割合は少ないですが一定数います。また、「家庭での自主学習」については、学年が上がるにつれて肯定的回答がやや減少しています。これは、学年が上がるにつれてどの教科も学習内容が難しくなり、自信をもって「できた・わかる」と感じる児童が少しずつ減っているのではないかと考えられます。児童が「できた、わかる」と感じられるようになることを目指してこれを改善するため、どの教科どの単元でも、今以上に計画的に教材研究や授業準備などをすすめ、児童の関心・意欲やクラス・学年の実態に沿いながら、意図的に子ども主体となるような授業展開を考えていきます。また、自主学習については、家庭学習の方法を分かりやすく伝えたり、学習内容を工夫したりすることで学習習慣の確立、家庭学習の質の向上に努めていきたいと思います。

「読書の習慣」についても、中学年や高学年では肯定的回答が減少(低89%、中74%、高76%)する傾向にあります。このような結果となった要因として、絵本から読み物への移行がスムーズにいかず、年齢や実態に合った本に出会えないことが大きいと感じています。各教科等の学習とも関連させながら、いろいろなジャンルの本に親しむ機会を設けていきたいと思います。昨年度に引き続き、今年度も読書週間の取組の一つとして「おうちで読書」を呼びかけたところ、たくさんのご家庭から感想をお寄せいただきました。今後も図書ボランティアさんによる読み聞かせやもみじ読書週間の取組等、引き続き学校司書や図書ボランティアの皆様とも協力して、日常の読書の習慣化につなげていきたいと考えています。

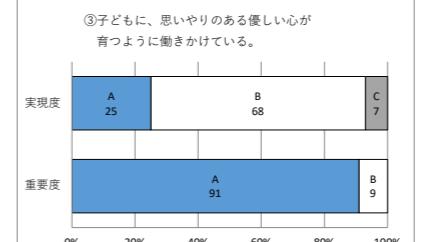
### 2 豊かな心

#### 【思いやりのあるやさしい心】

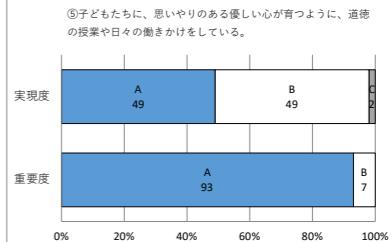
〈児童〉



〈保護者〉

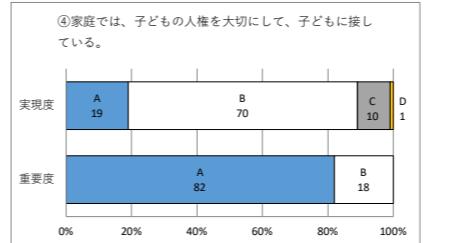


〈教職員〉

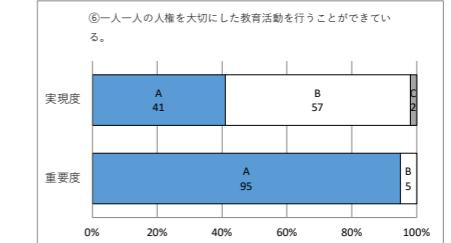


#### 【人権を大切にした教育】

〈保護者〉

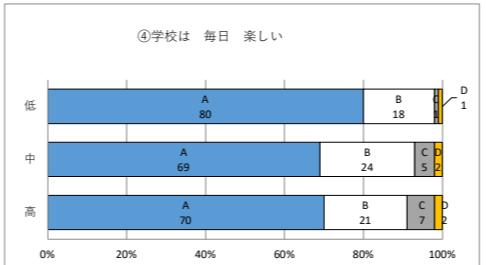


〈教職員〉

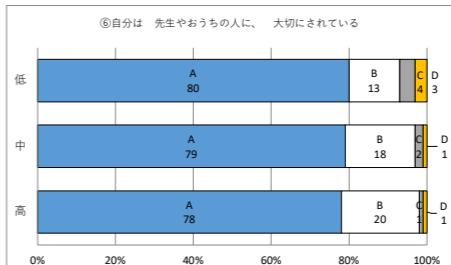


#### 【楽しい学校生活】

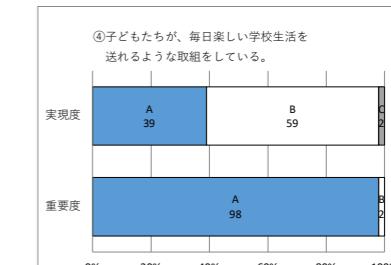
〈児童〉



〈児童〉

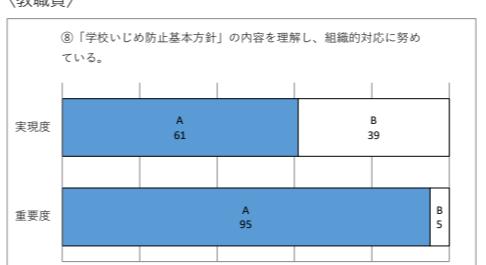


〈教職員〉

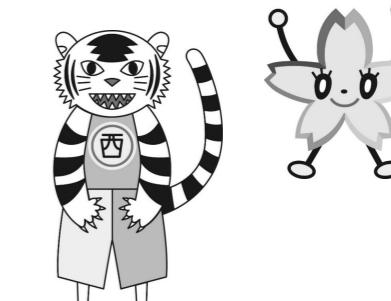
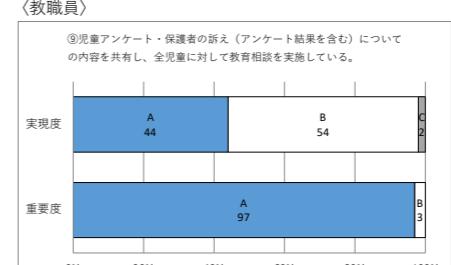


#### 【いじめ防止のための取組】

〈教職員〉



〈教職員〉

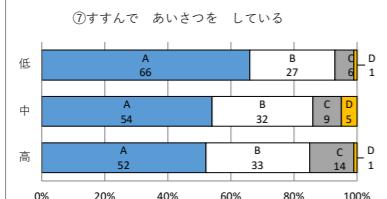


「思いやりのあるやさしい心」「人権を大切にした教育」については、児童・保護者・教職員でAB回答が90%を超える結果となりました。本校のめざす子ども像、「人とのつながり」を大切にする子どもに向けて、学校や家庭での取組の積み重ねが、このような良好な結果を招いていると考えられます。しかし一方で、CD回答の児童がいることもしっかりと受け止める必要があります。成長とともに自分のことを客観的に見ることができるようになり、友達関係が深くなってきたがゆえに言葉遣いなどに遠慮がなくなったりしていることも考えられます。アンケートの結果だけではなく、普段の児童同士の関わり合いを教職員がしっかりと見取り、ふさわしくない言動については全教職員が同じ視点で指導することが大切だと考えます。どんな言葉をかけるとみんなが気持ちよく過ごせるか、どんな言葉をかけられたときに自分がうれしかったのかなどを交流し考えることにより、温かい言葉かけを実践していくことができるようになります。保育者・教職員においても、自らの言動が周囲に及ぼす影響を想像する力を養い、自らの人権意識を高めていくことが大切であると考えます。

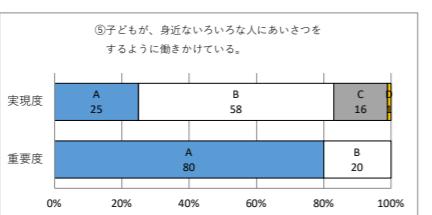
「学校は毎日楽しい」と感じている児童が、低学年で98%、中学年で93%、高学年で91%となりました。また「自分は先生やお家の人に大切にされている。」については、低学年で93%、中学年で97%、高学年では98%と大変高い結果となりました。児童が身近な大人から大切にされている、と感じられていることは、心の安定につながっていると思います。また、自分が大切にされていることは、まわりの人を大切にすることにもつながります。しかし、そうでないと感じている児童がいることもしっかりと認識し、担任をはじめとした教職員が的確に児童の様子を把握し、その思いを受け止めるために、児童の言葉に耳を傾け、家庭と連携しながら働きかけていく必要があると感じます。この「振り返りアンケート」はもちろん、「いいじめアンケート」、4年生以上の「クラスマネジメントシート」などを効果的に活用し、児童の実態を把握することに努めています。更に「児童に対する教育相談の実施」は、確実に丁寧に行うよう努めています。またご家庭におかれましても、お子様との対話を大切にしていただいたら、様子を見守っていただいていると感じられます。こうした働きかけが、児童の「学校が楽しい」「自分は先生やお家の人に大切にされている」の結果にもつながっていくのではないかと考えて取り組んでいま

## 【あいさつをする】

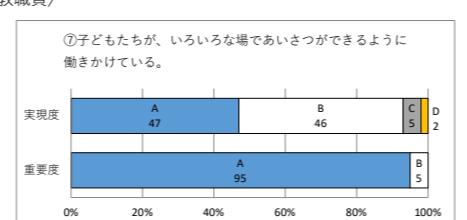
(児童)



(保護者)

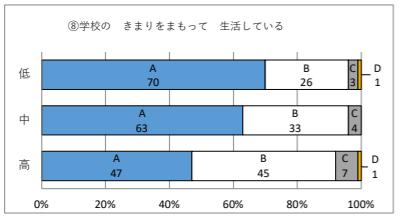


(教職員)



## 【規則を守る】

(児童)



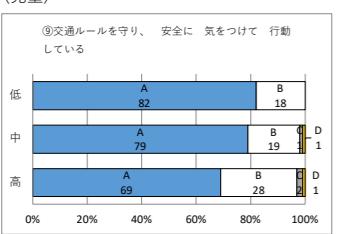
「あいさつをする」の児童の回答については、肯定的回答の割合が多い状態(低学年93%、中学年86%、高学年85%)となっていますが、日々の生活の中で児童の様子を見ていると、しっかりあいさつができるときと、できないときがあります。また、校内ではしっかりあいさつができるのに、登下校のときは安全ボランティア等の地域の方に自分からあいさつができにくいということもあります。相手意識をもってあいさつをすることが大事だということを児童が確実に理解し、TPOに応じたあいさつができるように取組を進めています。また、教職員や保護者をはじめとする身近な大人が、相手意識をもったあいさつをしていくことも必要だと考えます。

「規則を守る」については、どの学年でも肯定的回答の割合が多くを占めています。例えば学校のきまりとして黄帽子や名札を着用することとしていますが、着用することによって、自分だけでなく周りの人の安全を守ったり、一人一人を大切にしたりすることにつながっていくということをすべての教職員が児童に話しています。規則を守ることは、友達を大切にし、自他の安全を守ることにつながるという人権の視点についても児童が理解できるようにするとともに、その重要性を自覚し、自ら行動することができるような取組を今後も継続していきます。

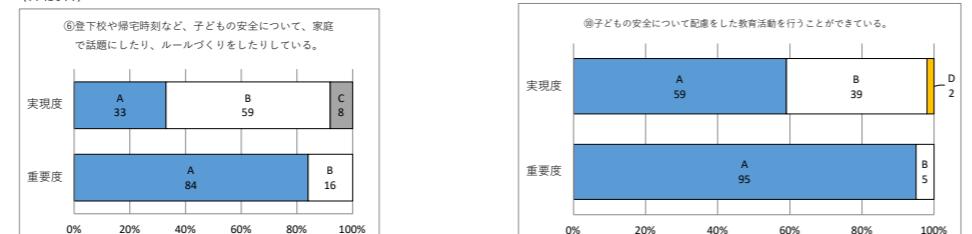
## 3 健やかな体

### 【安全に気を付ける】

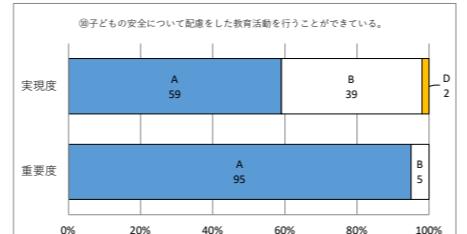
(児童)



(保護者)



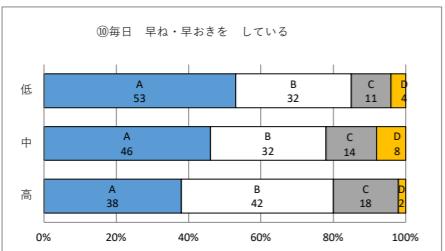
(教職員)



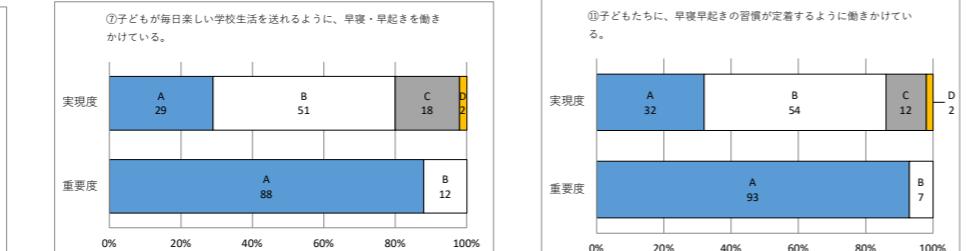
「安全に気を付ける」では、肯定的回答の割合が多くを占めています。多くの家庭で安全について話題にしていただき、学校でも安全に配慮した教育活動を心がけていることで、家庭と学校が連携した児童への働きかけができていることが伺えます。また、子ども見守り隊の方々も、児童の登下校の様子を毎日見守ってくださっています。しかし、児童の様子を見ていると、特に下校時に車が頻繁に通る道を走っていたり、友達と遊びながら帰っていましたと、危険な場面をよく見かけます。今後も引き続き、見守り隊の方々とも連携しながら、児童の様子を見守り、必要に応じて注意を促していきます。それをお便り等でご家庭にも発信することで、更に連携を深めていきたいと思います。

## 【早寝・早起き】

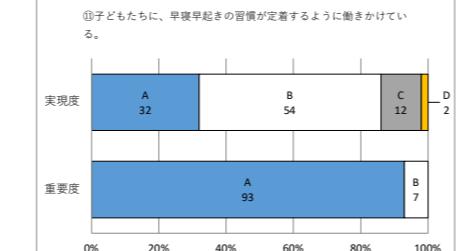
(児童)



(保護者)

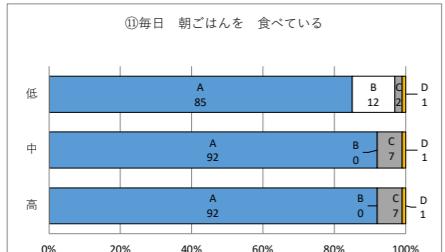


(教職員)

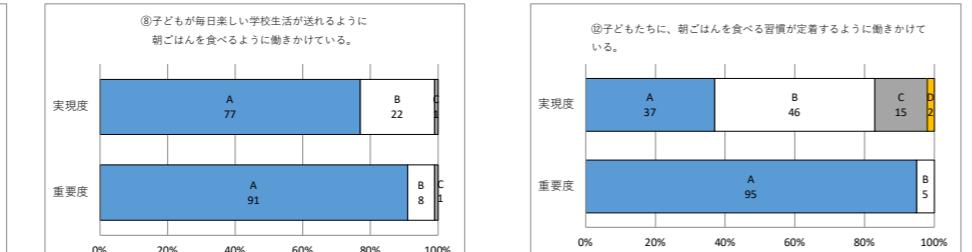


## 【朝ごはん】

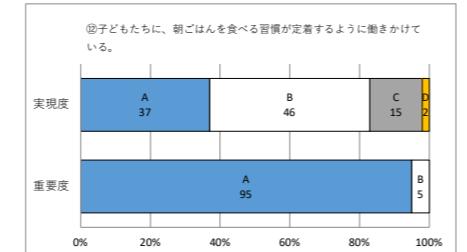
(児童)



(保護者)

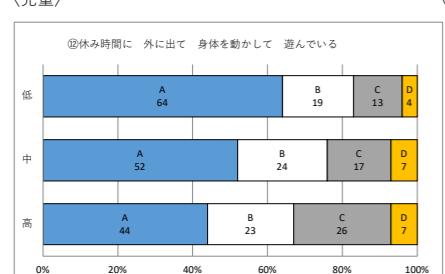


(教職員)

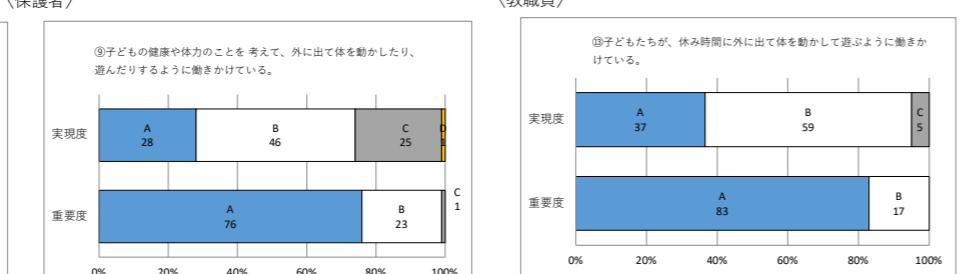


## 【体を動かして遊ぶ】

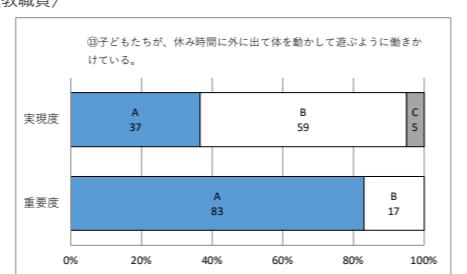
(児童)



(保護者)



(教職員)



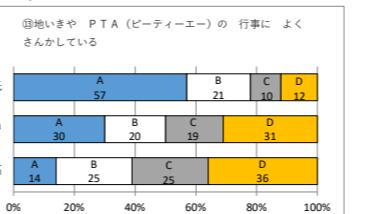
「早寝・早起き」については課題が見られます。学年が上がるにつれ、宿題や習い事、メディア(TV、ゲーム、タブレット)などに時間を使やすくなることがあります。就寝が遅くなり、起床も遅くなることがあります。また、「朝ごはん」についてCD回答の児童も、少なからずいることがあります。早起きができないため、朝食をしっかりと摂ることができないかもしれません。教職員の働きかけにも改善の余地があります。各学級での指導に加え、保健だより等で睡眠時間の確保の大切さや時間の使い方(TVを見る時間、物事の優先順位など)、体育科の保健学習や養護教諭による保健指導、栄養教諭による食の学習とも関連させながら、規則正しい生活習慣の確立、健康への意識を高めています。また、長期休業明けに「生活見直し週間」を設定し、すこやかチャレンジのプリントで実態把握をすることで、家庭と協力しながら、児童が生活リズムを整えるよう全教職員が意識して指導を行っています。またメディアに時間を費やすことが増えることで、SNSトラブルに巻き込まれないように、情報モラルについて様々な場面で学習できるように取組を進めています。ご家庭でも、メディアを使う際のルールについて、お子様とお話を来て決めていただきたいと思います。

「休み時間に外に出て体を動かして遊んでいる」についても課題が見られます。朝休みや中間休み、昼休みには運動場で多くの児童が楽しそうに遊んでいます。また、中学年や高学年になると、放課後にも学年を超えて友達と一緒に元気よく遊ぶ姿が見られます。しかし、個人差があるようです。様々な遊びに挑戦する「ジャンプアップ週間」も活用しながら、児童の体力向上をめざした取組を進めています。

## 4 その他

### 【地域・PTA行事への参加】

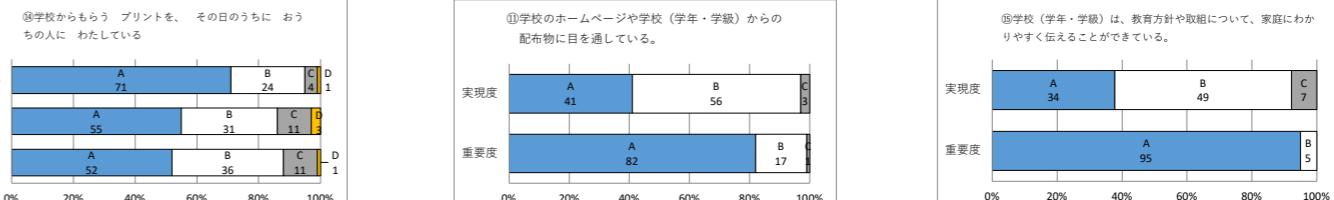
(児童)



(保護者)



(教職員)



「地域・PTA行事への参加」については、児童の実現度は全体的に低くなっています。保護者の結果からは、参加することは重要と考えてはいるが、時間的な余裕がないなどの理由で参加できないという実態もかがえます。その一方で、今年度はPTAや、学級委員の選出もあり、ボランティアとして多くの方に行事に参加してご協力をいただいております。年に数回でも参加できる機会があれば、地域のたくさんの人々とつながることができます。災害等、何かが起こった時にお互いに助け合える絆づくりを普段からしておくことも大切だと考えます。そういった視点からも、学校ホームページや学校だよりを通して広報に努め、参加を呼びかけています。

「学校からもらいうりをその日のうちにわざしている」では、CD回答が学年が上がるにつれて増加しています。このことから、学年が上がるにつれてルーズになっていることがあります。学校からのおたよりなどが配布された日に、確実にご家庭に届くように、普段から持ち物を整理整頓する習慣付けを今後も行っています。また、学校ホームページについては、タイムリーに更新して情報発信に努め、家庭や地域の学校教育活動への理解を得るとともに、家庭や地域と連携した取組を更に進められるようにと考えています。保護者連絡ツール「すぐーる」ではおたよりや、緊急のお知らせを配信することができます。必ず通知をONに設定していただきますようによろしくお願いいたします。

### ◆学校評議委員会の皆様のご意見

#### 【学力向上】

○現代の情報化社会において、タブレットなどのICT機器を使いこなすことは必須となってくる。児童がタブレットを使いこなして学習に取り組んでいるのは素晴らしいことです。ただし、タブレットだけに頼るのはなく、どのような学習で使うことが効果的なを考えることが大切。ノートに書いて学習することも大事にしてほしい。

○宿題をすることの意味を児童にきちんと説明することが、子どもの意欲を高めることにつながるのではないか。

○読書については、子どもだけでなく、家庭にも働きかけていくことが大事ではないか。まず、大人が読書に親しみ、その姿を見せることが子どもが読書に向かう意欲につながっていくと思う。また学校では朝読書をしているが、それが読書の習慣化にとても効果があるということなので、継続していいってほしい。

#### 【豊かな心】

○朝の登校の様子がとても素晴らしい。班長を先頭に、整列して歩いていることで安全に登校できている。その反面、下校の様子が気になります。京都市教育委員会生涯学習部より発行されている「コミュニティ・スクール通信@京都」にも掲載されているように、子どもたちの学校生活をよりよいものにするためには、学校・家庭・地域が互いに高め合う双方向の信頼関係を構築することが何よりも大切です。そして、三者が「子どもたちのために、自分はどうすることができるだろうか。」という意識をもって、それぞれが教育活動に参画し、子どもを産むための取組を進めていくことが大切です。今後ともご協力をよろしくお願いいたします。